

知のジムナスティクス科目

手話の世界と世界の手話言語☆入門

大阪大学文学部／文学研究科博士前期課程 国語学講義
2017年度 秋・冬学期 木曜4限 (教室未定)

日本語対应手話



日本手話



図1 「加藤君は佐藤さんを好きです」という文の日本語対应手話（上）と日本手話（下）の表現の一例（図中の矢印は動きの方向、枠線はひとまとまりの動きを示す。本稿の他の図でも同様）。

菊澤律子「手話言語が開くコトバの研究の未来」『民博通信』2016 No. 155より。

次の質問に○×で答えてください……

1. () 手話はジェスチャーの一種である。
2. () 手話には方言がある。
3. () 幼児は手話を自然に習得することができる。
4. () 日本手話は日本語の一種である。
5. () 手話は人間の（自然な）言語である。

(正解は裏面にあります)

手話と言語の関係について知りたくなったら、ぜひこの講義を受けてください！第一線で活躍する手話研究の専門家が、手話をめぐる問題についてやさしく説明します（詳細は裏面に）。

受講に関する問い合わせ：大阪大学大学院文学研究科教務係
講義内容に関する問い合わせ：金水 敏 (kinsui@let.osaka-u.ac.jp)

基本情報

時間割コード	文学部	004217 (知のジムナスティックス科目)
	文学研究科 (博士前期)	203504 (知のジムナスティックス科目)
開講区分(開講学期)		秋～冬学期
曜日・時間		木4
開講科目名		国語学講義
教室		未定
講師		菊澤 律子先生、他14名担当科目 (リレ講義)

手話言語学および関連分野の諸専門家によるリレー講義の形式で行います。トピックとしては、手話の文法に関する基礎的な内容や言語習得や言語教育などの関連分野、また、手話の言語類型論などを含みます。その他に、日本手話のみを用いた日本手話入門の時間を設け、視覚情報によるコミュニケーションを実体験したり、翻訳や映像認識などに関わる工学系の研究における最新の研究成果や、日本語と日本手話のバイリンガルに育つことが多いコーダ（ろう者を親にもつ聴こえる子供）に関する話題等、広い視点から「手話」を概観します。具体的な内容と日程については、授業計画参照のこと。なお授業は、日本語、英語、または日本手話で行われます。日本手話による講義には、音声日本語への通訳がつきます。（第2回講義の日を除く。）

講義スケジュール (変更されることがあります)	
第1回	タイトル：手話ってなに？ 言語学ってなに？ 講師：菊澤律子 (国立民族学博物館/総合研究大学院大学)
第2回	タイトル：ナチュラル・アプローチ (ダイレクト・メソッド) による日本手話入門 講師：野口岳史 (国立障害者リハビリテーションセンター学院)
第3回	タイトル：手話言語学入門：音声言語と手話言語、日本語と日本手話 講師：市田泰弘 (国立障害者リハビリテーションセンター学院、国立民族学博物館)
第4回	タイトル：日本手話の文法：「音」から「文」へ 講師：今里典子 (神戸市立工業高等専門学校)
第5回	タイトル：(1) 手話の書記法 (研究目的, 日常的な書き言葉)(2) 手話通訳者の言語使用 講師：菊地浩平 (総合研究大学院大学)
第6回	タイトル：手話にまつわる社会言語学 講師：木村晴美 (国立障害者リハビリテーションセンター学院) [日本手話・通訳付き]
第7回	タイトル：日本手話の音韻変化 講師：池田ますみ (国立民族学博物館) [日本手話・通訳付き]
第8回	タイトル：世界の手話における数のしくみ、日本手話系言語における数表現の変化 講師：相良啓子 (国立民族学博物館) [日本手話・通訳付き]
第9回	タイトル：愛媛県大島のろう・聴コミュニティの言語と文化史 講師：矢野羽衣子 (日本ろう福音協会) [日本手話・通訳付き]
第10回	タイトル：手話通訳という仕事 講師：飯泉菜穂子 (国立民族学博物館)
第11回	タイトル：第一言語としての日本手話の意味-バイリンガル教育の観点から- 講師：野山広 (国立国語研究所)
第12回	タイトル：イタリアのバイリンガル教育 講師：小谷眞男 (お茶の水女子大学 基幹研究院)
第13回	タイトル：手話の工学的な研究 (コンピューター解析や翻訳、アニメーションツール) 講師：長嶋祐二 (工学院大学)
第14回	タイトル：音声言語と手話言語の失語症の比較、交通事故裁判 講師：原大介 (豊田工業大学)
第15回	タイトル：レポート提出・発表会 講師：菊澤律子 (国立民族学博物館/総合研究大学院大学)

より詳細な情報については、KOANを御覧ください。

→表面 クイズの答え：×、○、○、×、○